



オンラインの弊害

一般社団法人相模原ダルク 代表理事 田中秀泰

三寒四温の言葉どおり、冬が行きつ戻りつしている昨今ですが、皆様はお元氣でご活躍のこととお喜び申し上げます。いつも身に余るお力添えをいただきまして、まことにありがとうございます。

本年1月に再度施行されたコロナウイルス緊急事態宣言が延長され、原稿を書いている2月末日現在も不要不急の外出自粛中です。これを受けて再び野外プログラムや一部夜の自助グループの自粛、家族会の中止等、様々な弊害が多々ありました。毎年2月には全国の仲間が相模原市に集まり、回復を祝い合う恒例イベントNA相模原グループ主催のNA相模原オープンスピーカーミーティングも残念ながら中止になりました。定期的な抗体検査に始まり、昨年から引き続き厳重な感染症対策を行なっている効果なのかどうかはわかりませんが、お陰様で相模原ダルクの利用者、スタッフ共に変わらず全員健康で元気にそれぞれのプログラムに励んでおります。

毎号5ページ目に近況写真を載せていますが、最近の傾向として各種研修や講演活動をオンラインで行う機会が増えてきました。またコロナ騒動以前は、弊社有給スタッフに義務付けていた社外の臨床心理士による個別カウンセリングも、この1年間は全くできていない状況です。感染症対策として密になることなくコミュニケーションがとれるオンラインの利点はよくわかるのですが、依存症からの回復という視点で講演活動やカウンセリングを考えると、どん底の人生から依存症という病に降参していく過程で経験する様々な挫折や後悔、孤独感、またダルクに入所し回復していく過程で感じる、自分自身の感情と向き合う作業や達成感、成功体験、仲間との連帯感といった一番重要な核心の部分をお伝えする事が、どうしてもオンラインでは不十分になってしまうことを懸念しています。

今後もしばらくはコロナ関係の政策や社会の動向に沿った運営に努めていく一方で、オンラインのあり方や、より感情や心理的な情景をお伝えできるような創意工夫がテーマになってくるでしょう。

予定では3月7日に自肅が解除されるようです、今年こそは皆様に3月22日に予定している第3回修了式のご報告ができますよう、祈るばかりです。

春寒の折、皆様にはくれぐれもご自愛のほどお祈りいたします。

『私の依存の歴史』

カム

初めまして、沖縄から来ました、ギャンブル依存のカムと言います。

まず、自分の家族は12人家族でその中で自分は一番下の末っ子です。父は自分が高校生までダンプの運転をしていました。母は養護学校の先生をしていました。自分は、小学、中学まで普通に学生をして部活も野球部に入り頑張ってやっていました。その後、農業高校に入学をしました。2年からは姉の家から通学して自分でバイトをして学費と小遣いを自分で稼いでいきました。その頃から同級生がタバコを吸っていて自分も吸いたいと気持ちがいつてしまい、3年になって寿司屋でバイトをして、先輩に誘われて初めてパチンコ屋につれて行ってもらいました。これがきっかけで自分のギャンブル生活がはじまりました。その後、高校を卒業して仕事はそのまま寿司屋に就職しました。自分で給料の管理をする事になり、気分は高まり、ギャンブルをする事が頭から離れなくて足がパチンコ屋に行っていました。それから、寿司屋を辞め次の仕事を探し見つけたホームセンターでアルバイトする事にしました。給料日にはすぐパチンコ屋に行きお金が底をつくまでやっていました。負けた時はどうしようか考えて同級生に「お金を貸して」とお願いして借りました。借りたお金はすぐパチンコとスロットをしに行きました。気持ちは「勝ってお金を増やして返せばいい」と思ってやっていました。結果負けてしまい自分に対してイライラがでてきて「二度とやるか」と思いました。ですが、イライラは1日で忘れてしまい、また違う人にお金を借り、その前に同級生から借りたお金より少し多く借りて借りた金は返して、あまりのお金でまたパチンコとスロットをしに行きました。それでもまた負けて考えたすえに金融会社からお金を借りました。三社から30万ずつ借り、パチンコ、スロットはもちろん後輩を誘い酒も飲みに行っていました。しばらくたつと金が底をつき、お金が返せなくなり親に見つかってしまい、言い訳をしてその場をしのいだのですが、兄や姉にまでつたわって怒られてしまい姉のほうで自分のお金の管理をしてもらい、母親に少しずつ返していく事になりました。小遣いになり、そのお金でパチンコやスロットをし小遣いがあるぶん使い込んでしまい、また同僚にお願いしてお金を貸してもらい、またパチンコ屋に足を運んでいました。勝っては返して、負けたら少しまってもらう事にしてもらい内緒でギャンブルをしていました。それも姉にバレてしまいまた怒られてしまい、小遣いも少なくなり姉の家から仕事も通いパチンコ屋にもいけない状態になりました。半年間ギャンブルを止める事ができ小遣いも元にもどり安心したのですが、姉の家から通っていたのでギャンブルができないのでまじめに仕事をしていました。仕事をしていると酒の付き合いが増え飲みに行っていました。見兼ねて「給料も少ないし仕事を変えたら」と言われてホームセンターを辞めて、派遣会社をお願いして仕事を探してもらい、ホテルの厨房をしながらウェーターや運転代行をしてお金を貯めていきましたが、休みになるとパチンコ、スロットをやっていました。職場の後輩と飲みに行き「帰り車で送るよ」と言って車に乗せてホテルの寮まで送ってる途中で警察に止められて、酒の匂いがすると検査されてその場で警察署につれていかれました。後輩には申しわけない事をしたと思ってます。自分は2日間警察署にいて、会社・家族に迷惑をかけました。免許を失い会社の寮から自転車で15キロかけて通ってましたが、2020年4月からホテルも営業停止になり自粛生活になりやる事もなく実家に帰ったり、お金があればパチンコ屋に行ったりして過ごしていました。

自粛は3ヶ月つづき、自分もストレスで夜中に隣の部屋が開いており、忍び込みお金を盗もうとしてしまいました。住居人に見つかってしまい、急いで逃げました。逃げたあと、部屋で心臓がドキドキしていて、どうしようと悩んでいて、外にパトカーも来ていました。次の日の昼に警察が来て自分は警察署につれていかれ、逮捕されました。留置所に1ヶ月と2週間いました。その間に家族が面会に来てくれてダルクという場所があると言われ、自分は「それはどこだ？」と思いました。後後知りました。依存者の集まる場所だと、そのあと拘置所に一週間、その後、裁判になり、懲役1年、執行猶予2年の判決が出ました。最後に両親に会ったのが裁判所で親の言葉一つ一つ重く心に響きました。出所後、沖縄ダルクのスタッフと会い少し説明を受け、沖縄の寮に1日宿泊させてもらい、次の日の朝一番の便で、東京に向かい羽田空港に着き相模原ダルクに着きました。最初の一ヶ月は環境の違いにお腹の調子が良くなって悩みました。2ヶ月、3ヶ月と体調は良くなり、仲間と仲良くなり、今はスタッフとして頑張っています。

今後、強い心をつくって、前向きに仲間と楽しくやっていきたいと思っています。

『私の依存の歴史』

ユウ

初めまして。薬物依存症のユウです。自分が初めて薬物を使用したのは 13 才の時です。

自分は東京都府中市で生まれ群馬県伊勢崎市で育ち、小学校 6 年生までは真面目な優等生でしたが、私立中学校受験に失敗したことから、一気に横道にそれ始めました。自分の中学は 2 コ上、3 コ上の先輩達が悪く、その先輩達に憧れを抱き、不良少年になるまでに時間はかかりませんでした。大麻、脱法ドラッグを常用し始めました。14 才の時に暴走族に入り数々の事件を起こし、15 才の時に一度目の少年院に入り、出てきてすぐに覚せい剤を覚えました。キッカケは脱法ハーブを後輩と吸い、その後輩が団地の 3 階から飛び降りたことです。先輩から「覚せい剤の方が安全だから」、「あぶりなら大丈夫だよ」と。恐怖心もありましたが、常に快樂優先で生きてきた自分はすぐに手を出しました。少年院を出て 4 ヶ月後に逮捕、2 回目の少年院を出て、1 週間後に逮捕、3 回目の少年院を出たのは 20 才を過ぎた時です。10 代の大半を少年院で過ごしてきた自分は、当時の社会の変化についていけず、10 代の頃付き合っていた暴走族仲間、不良グループの仲間たちは、自分が少年院の出入りを繰り返している内に大半の人間がまともな道を歩んでいて、自分はうとましがられるようになっていきました。そんな中、一部の先輩は地元の暴力団組織に加入し、少年ヤクザになっていきました。覚せい剤のペースが増えてきて、その時の自分はとにかく自暴自棄になっていました。その頃からです。今まで遊びの延長、その場の楽しさだけで犯罪行為を行っていた自分は、覚せい剤中心の生活を送っていく中で、先輩のシノギの手伝いをするようになり、犯罪が悪質になっていきましたが、覚せい剤のことしか頭になかった自分は、自分の身体を大切にすることが出来なくなっていました。先輩の駒として使われ、反目の組織の犯罪収益金の強奪、警察に被害届を出すことの出来ない多額の現金を狙い、覚せい剤の効果もあり、手口が雑になっていきました。一瞬にして大金を手にする旨味を覚えたと同時に、勢いをつける為、シラフだと度胸は無く、出来ないようなことも多く、より覚せい剤に依存していきました。そんな波のある生活も約 2～3 年続きました。そして 23 才の時覚せい剤で逮捕、懲役 1 年 6 月、執行猶予 4 年の判決が出ました。その間、千葉の方で鳶の仕事をしたり、覚せい剤をやめる努力をしましたが長続きせず、自分は余計に投げやりになっていきました。ある時売人と連絡が取れず、インターネットで覚せい剤を買おうとしてから、自分の中で何かが確実に壊れていきました。最初は普通に買いましたが、インターネットの覚せい剤は値段も高く、モノも悪く、時間もルーズで普通に買っていることが馬鹿らしくなり、自分の狂気の部分が出てきて、殴って奪っちゃえと思い、一度やったら止まらなくなりました。

弁護士の先生を通して相模原ダルクを紹介してもらったのは 23 才の時です。覚せい剤は止まったものの落ち着きませんでした。常に周りに対して敏感でイライラが止まらず、更に覚せい剤の欲求や渴望も強く、やり場の無い怒りを仲間につけ、覚せい剤を使う。暴力は使わないまでも、やっていることは今までの社会当時の自分と何一つ変わっていませんでした。昔の生活に戻るまでに時間はかかりませんでした。一度投げやりになると、すぐに諦めてしまいました。誰も自分の辛さを分らないと本気で思っていました。約半年で施設を飛び出し、覚せい剤を使う女、地元の先輩を頼り、より一層覚せい剤にのめり込みました。そんな自分を心配して先輩達は自分を監視しましたが、監視されればされるほど自分は人から離れ、孤立していきました。施設を退寮してから約 5 ヶ月後、自分の周りにはほとんど人がいなくなりました。その為自分の覚せい剤使用は、自傷行為に近かったと思います。社会には自分の居場所はありませんでした。最後は自分で警察署に飛び込んで逃げようとしてしました。悩んだ末施設に戻りやり直す決意をして頑張ってみようと思いました。それしかもう自分には選択肢は残っていなかったと思います。

今現在一度目の入寮時と比べたら、多少ですが落ち着いている自分がいると思います。日々色々なことがありますが、怒りや孤独や苦しみ、それらを感じることは決して自分だけでなく、周りの人も同じだということ、全てを受け入れることは出来ませんが、1 つ 1 つあせらず少しずつでもいいから自分の内面と向き合い、時間がかかってもいいから精神的に弱い自分を素直に受け入れることが出来るよう、又今までと同じ失敗を繰り返したくないという自分の気持ちに嘘をつかず、これからも自分の病気は出てくると思いますが、日々の生活を今日一日で過ごしていきたいと思います。

こんな自分を受け入れてくれた相模原の仲間感謝しています。

『再び回復に向かう』

クボッチ

こんにちは。ギャンブル依存症のクボッチです。体験談を書かせていただくのは2回目になります。

私は大学時代にパチンコ・スロットを友人から教わり、最初の1回目に1万円勝ったことがきっかけとなり「世の中にこんなに刺激的で面白いものがあったんだ」と、目から鱗が落ちるような感覚もあり、すぐにのめり込むようになりました。大学2年頃から授業を休むようになり、当時在籍していたサークルの会費（メンバーから集めた10万円）をスロットに使ってしまい友人とも縁を切りました。そこからは単位が足りず留年、消費者金融に50万の借金、家庭内での盗み、家族と口論になっての家出、嘘をついてバイトを休みスロットに興じるなど、様々な問題を引き起こし大学も辞めました。そこからは依存症の回復支援施設に2年ほど通うもギャンブル依存は止まらず、働くも続かずニート、フリーターの状態を繰り返しながら、離婚した父と母に寄生するようにそれぞれと暮らしました。怠惰で失敗を繰り返す自分を受け入れる事も家族にとっては限界があり、「生活保護を受けて。もう一緒に暮らせない」と母に言われてやむなく了承しました。心の中では「もう嘘をつかなくてもいい、借金の肩代わりで迷惑をかけなくて済む。何より自由にお金の管理ができる、スロットを自由に楽しめる」と自分に都合の良い考えを抱いていました。生活保護者の集う無料低額宿泊所を2ヶ所経験しましたが、一ヶ所目では自助グループに通うもやめる気はなく、宿泊所の長から嘘をついて金を借りて脱走、スロットに使い、食料欲しさにコンビニでおにぎりを万引きして逮捕され留置場に入りました。2ヶ所目では「ここでしっかり働いて自立しよう。」と決心しアルバイトを続けていましたがギャンブルは止まらず、周りの人間にも迷惑をかけないように心がけていましたが、市役所からアパートへの転宅許可が下りても、アパートを探そうとはせず、ギャンブルに興じていました。入居して一年半が経過した頃には施設の家賃を滞納し、バイトの先輩への借金も嫌になり再び脱走。保護費一ヶ月分を2日でスロットに溶かし、公園で放心状態でいました。家族には家に入れてもらえず、飛び出した施設に戻る勇気もなく「ホームレスにでもなってしまうか」と思うと同時に、長年向き合いたくなかった自分の依存と向き合う覚悟を決め、ダルクの門を叩きました。この時点で依存症を自覚してから8年経っていました。27歳でまともな職歴もなく、自分の過去の行いや人生そのものへの後悔と自責の念に押し潰されそうな気持ちで入寮しましたが、仲間の愛情をもらいクリーン1年3ヶ月経った時にギャンブルの欲求、先行き不安、施設生活や人間関係のストレスなどにうまく対処できずスリップしました。やり直す気力もなく逃げるように退所。一ヶ月間ホームレス状態で行く当てもなく悪さしながらギャンブルに依存していました。去年の8月頃です。再び入寮させていただきましたが、「自分には回復はムリだ」と強く思っていました。過去の失敗からくる不安、無気力などの感情がありました。戻ってから半年が経とうとしています。初入寮からは1年と10ヶ月です。日々のプログラムに参加させてもらいながら過去の自分、今の自分と向き合う中で、また仲間との共同生活の中で自分の中の様々な欠点、気持ちに再び向き合う事が出来るようになってきたと思います。

過去はお金を好きな事に好きなだけ使い、大切な支払いから逃げたり、人との関わりを好まず一人を好んだり、虫歯を放置して何も食べず一日中タバコを吸いながらギャンブルをするなど自分の健康を省みなかったり、人を騙して傷つけたり、生き方そのものが悪化していました。クリーンでいれば借金・嘘・盗み等の強迫的な行動は止まりますが自分がギャンブルに頼らざるを得ないような状態に自分を追い込むのは自分の生きづらさが解消されていないからだと思えるようになりました。

今はやり直しですが自分の健康に目を向けたり、お金の使い方も仲間の為に使う事もできるようになり、また社会の一員になる上で大切な人との関わり方など沢山の事に目が向くようになったと思います。戻ってきて疲れきっていた自分を再び温かく迎えてくれた仲間や、「頑張ってください、あなたなら出来ます」と応援して下さるケースワーカーさん等沢山の方の助けで前向きになれました。勿論病気の本質的な部分は変わらないと思いますが、過去の身勝手な高慢な生き方を変えていけば、人を思いやる事も出来るようになりますし自分を変えたいと思わせてくれたのはやはり回復している仲間たちのおかげです。自分の良い点も悪い点も人と比較して苦しむ事もなく受け入れられるようにもなってきました。人として成長したいと改めて思えるようになりました。感謝しています。ありがとうございました。

オキュペーション（農作業）プログラム



スポーツプログラム



法人初詣



抗体検査



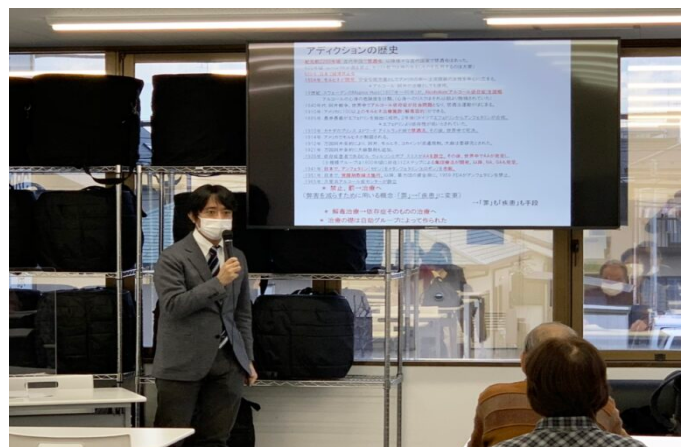
ギャンブル依存症施設職員研修



11月家族会(高橋弁護士)



12月家族会(朝倉先生)



メンバー報告

2 月のステージアップ

新規入寮者

チャピオ Stage2 に仲間入り！
 ユタカ Stage1 に仲間入り！
 コタロウ Stage1 に仲間入り！

メンバー

ケイ Stage3 に UP！
 カズ・ツグ Stage2 に UP！
 ナバ・ユウ Stage2 に UP！
 アッパ Stage2 に UP！

スタッフ

キズナ・ユウスケ・アツオ トレーニーへ昇格！ カム サポートへ昇格！

施設報告 2 月 1 日現在 利用者 47 名です。

Manager 1 名		Chief 3 名		Trainee 5 名		Support 3 名
Stage1 5 名	Stage2 13 名	Stage3 11 名	Stage4 3 名	Stage5 1 名	通所者 2 名	

活動報告・予定

12 月報告

2 日 個別支援計画会議
 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 4 日 相模原市精神保健福祉センター内
 依存症回復プログラム
 5 日 神奈川県地域生活定着支援センター
 オンライン研修
 7 日 寮長会議
 9 日 相模原市立弥栄中学校 薬物乱用防止講演
 10 日 八街少年院薬物依存離脱指導
 15 日 相模原ダルク忘年会
 16 日 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 17 日 エイサー演舞会・小渕小体育館
 18 日 相模原市精神保健福祉センター内
 依存症回復プログラム
 19 日 相模原ダルク家族会
 20 日 神奈川県地域生活定着支援センター
 オンライン研修
 22 日 多摩総合精神保健福祉センター内
 薬物再乱用防止プログラム
 相模原ダルククリスマス会
 23 日 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 EC 会議
 24 日 八街少年院薬物依存離脱指導
 25 日 相模原市精神保健福祉センター内
 依存症回復プログラム
 26 日 ナイトケアハウス大掃除
 27 日 デイケア大掃除
 28 日 定例会議
 29 日 寮長会議

1 月報告

4 日 新年顔合わせ
 ニュースレター 2 2 号発送
 5 日 新年会 ビンゴ大会
 6 日 個別支援計画会議
 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 13 日 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 COVID—19 抗体検査実施
 12 ステッププログラム
 15 日 オキュペーションプログラム
 エイサー練習・高田橋
 18 日 新年祈願 亀ヶ池八幡宮
 19 日 若手職員向け職員研修（オンライン）
 小山田緑地公園散策
 20 日 多摩総合精神保健福祉センター
 事例検討会
 12 ステッププログラム
 22 日 オキュペーションプログラム
 エイサー練習・高田橋
 23 日 神奈川県地域生活定着支援センター
 オンライン研修
 26 日 多摩総合精神保健福祉センター内
 薬物再乱用防止プログラム
 DVD 鑑賞
 27 日 北里大学病院治療プログラム（KIPP）
 寮長会議
 12 ステッププログラム
 29 日 EC 会議
 オキュペーションプログラム
 エイサー練習・高田橋

相模原ダルク家族会のお知らせ

家族の回復は本人の回復と重なります。そのため毎月行っています。相模原ダルクスタッフ及び、外部から講師プレゼンターを招いてお話を聞かします。相模原ダルク入寮者内外のご家族が集まり、勉強と交流の会（ミーティング）を開いています。依存症者の家族の方ならどなたでも参加できます。他の家族会の方も歓迎です。毎回20名程度が参加しています。ご希望により、施設スタッフとの面談もできます。

毎月第3土曜 午後1時半～午後5時 予約不要 直接会場（相模原ダルクデイケア2階）へお越しください。

＊会費として1家族2千円をいただき通信費や講師謝礼に使わせていただきます。

＜2020年12月家族会報告＞

12月19日（土）1時半～5時 19名参加（14家族） 初参加3名（2家族）

講師：朝倉崇文先生「アディクションってなに？～「やり過ぎる」をどう扱うべきか？～」

北里大学医学部の精神科の朝倉です。精神科医です。北里大学病院でギャンブル障害、薬物依存症、アルコール症専門外来がありますが、全ての担当医をしています。相模原市の精神保健福祉センターでは、薬物ギャンブルの市民相談担当をしています。病院の外来のほうは予約がいっぱいですが、市の相談のほうは余裕がありますので、周りに困った方がいらしたらご紹介下さい。

依存症という病気には、だらしない人になるとか、意志の弱い人になるとか、ネガティブなイメージがあってそれが治療を難しくしている面があります。社会の偏見や差別があるので、どうしても治療につながりにくいし、続けるのが難しい現状があります。しかし泥酔記者会見で失脚した大臣の中川さんの事例で分かるように、だらしない人や快楽に溺れるような人が大臣になることはできません。他にも多くの著名人、有名人が依存症になっていますし、だれでもなる病気なのです。

そもそも依存症とは何なのか？依存症とか嗜癖障害とかいろいろ言われますが。アディクション（嗜癖）というのは、「何かにハマってしまって、なかなかやめられない、ほどほどができない、それによって自分にも周りにも不利な結果に陥っている、それでもやめられない。」こういう状態をアディクションといいます。医学では「依存症」といいますと、アディクションの中でも特に物質に依存してしまう、サブスタンス・ディペンダンスのことをいいます。嗜癖（アディクション）という言葉の方が広い概念ですが、「嗜癖」という言葉が日本語ではあまり聞き慣れないものですから、「依存症」という言葉のほうが一般に使われる言葉になってしまいました。物質ではなく行動自体に問題が出る嗜癖もあります。ギャンブルとか買い物とかセックスとか放火とか、そういうもののにのめりこむ人達を「行動嗜癖」といいます。ですが一般用語としてはこれらも「依存症」と呼ばれています。

「家族へのアドバイス」です。1）起きている問題を整理する。これはなかなか一人では結論づけにくいので人に相談することも大切です。知り合いに相談すると、変な思い込みがあったり、貸し借りが出来たりしがちなもので、限定して相談した方がいいかなと思います。2）自分自身をケアする。自分の人生は自分のためにあるので、誰かのための人生にしない事です。自助グループや家族教室に参加するのは、自分のためにもなるし、背中を見せる効果もあります。情報を集めることも大事です。3）結構大事なのは、治療者になる必要はないということです。治療者は他人であった方がいいです。責任がないからこそできることはあるのです。ご家族は治療者にならない方がいいです。4）自分の課題と本人の課題を分けること。依存症本人が依存物質を本当にやめているかどうかは、わからない事です。やめたからといって気持ちも晴れるかというと、そうとは限らないからです。行動が変わっても気持ちが変わらないことも実はある。それを見て不安になる自分をどう落ち着けるかはとても大事なことです。アディクト本人の課題と家族の課題は分けるべきです。

文責：伊藤

※公式ホームページ内、最近の記録欄に詳しい報告をお載せしております、ぜひご覧ください。

＜献金御礼＞

海老原真美子様 都筑宗子様 チエ様 岩崎浩二様 匿名様

＜献品御礼＞

神奈川県みんなの感謝お届け事業様 潮騒ジョブトレーニングセンター様
清水静江様 鈴木優子様 京都ダルク様 北里大学病院臨床心理室様 チエ様
小暮伸子様 針木佳伸様 香村恒子様 梅澤幸子様 仲井和義様 和澤秀子様
青葉グリーンファーム様 八角知子様 平本陽子様 島倉睦子様 匿名様

＜献金・献品のお願い＞

皆さま方には暖かいご支援をいただき、誠に感謝しております。重ねてのお願いで心苦しいのですが、大所帯となり食品・日用品が常に不足気味です。お米、缶詰、調味料、石鹸、シャンプー、洗剤、等々、ご家庭で余ったもの、献品いただけると助かります。ご家族には再三のお願いをしてまいりました。改めてニュースレター読者の皆様へ、献金・献品のお願いを申し上げます。

＜振込先のご案内＞

◎郵便振替払口座 口座名「相模原ダルク」口座番号 00270-1-138788

※発送作業の簡略化の為、大変恐縮ですが郵便振替用紙は2号に1度のペースで全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解ください。特に必要のある方、『匿名希望』の方は、その旨を通信欄に、その都度書き下さるようお願い致します。

プログラムマネージャーより一言：

依存症の一つ目の特徴は「一次性の病気」です。依存症に対してよく見られる誤解は、「意志が弱い」あるいは「性格に問題がある」ことが原因だというものです。また「子供のころのトラウマのせいだ」とか「学校や職場のストレスのせいだ」と原因を誤解している人もいます。薬物をはじめ依存症の原因は、依存対象物質を使用したことにあるのであり、意思や性格によるものではありません。トラウマや、ストレスがあっても依存対象物質を使わなければ依存症にはなりません。これが「一次性」という言葉の意味です。

編集後記：今号の体験談はギャンブル、薬物、ギャンブルの三人。後の2人は入寮二回目です。正直に書いてくれた文章に、依存症が一次性の病・進行性の病・孤独の病であることが、見事に表現されています。依存症は地域を選びません。家族友人の関係を蝕みます。東日本大震災10周年を目前に、当地で飲酒の相談が増えているとの報道がありました。どうか三重の病に苦しむ人の少なからんことを。（サービス管理責任者伊藤いずみ）

プリンシプル

相模原ダルクニュースレター N0.23

編集人：一般社団法人 相模原ダルク

〒252-0237 神奈川県相模原市中央区千代田 3-3-20

TEL042-707-0391 FAX042-707-0392

URL <https://s-darc.com> Email info@s-darc.com

発行人：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

定価 100 円

